

Sincerity⑦

校長 菊田勇雄

城を仰ぎ川を眺めて冬はじめ

（河野友人）

季節は冬に入り、暦の上では二十四節気の一つ「小雪」が過ぎました。まだ晩秋の気配も微かに残りますが、寒さも進み各地から初雪のたよりも聞こえてきました。先日、福島の自宅に戻った時、吾妻山も雪化粧をしており、急いで冬タイヤに交換をしました。校舎の屋上から中村城址を仰ぎ、宇多川を眺めながら、はじめて迎える相馬の冬は、どれだけ寒くなるのか、どのくらい雪が降るのか、想いを巡らせています。



修学旅行の今昔を考える

11月5日から8日まで2年生は京都・大阪方面へ修学旅行に出かけてきました。往復は仙台空港から飛行機で移動し、近畿地方の歴史・文化・産業等について見聞を広め、共同生活を通して級友との友情を深めました。従来の文化遺産やUSJの見学、班別自主研修に加えて、一日目のB&Sプログラムでは、京都の大学生といっしょに名所や大学を見学し、三日目のコース別選択学習では、パナソニックミュージアムやインスタントラーメン発明記念館等を見学するなど、趣向をこらした内容でした。天候にも恵まれ、思い出に残る有意義な修学旅行になりました。

ところで遡ること117年前、旧制相馬中学第1回卒業生は5年生になった明治35（1902）年春に修学旅行を行いました。目的地は東京・鎌倉方面、日数は10日間でした。東京を初めて見た生徒たちの驚きは大きく、ある生徒は感動を文集に次のように記しています。「東京は名にし負う帝国の大都、峩々たる大家高樓軒を並べ、其建築頗る壯麗を極め、電線ハ蜘蛛の巣の如く、人馬縦横織るが如く、或は腕車を飛ばして走るなり。」

昭和11年の修学旅行回は、上野駅で発足したばかりの京浜学生馬城会の先輩有志による歓送迎を受け、さらに旧中村藩主の相馬家を訪問し、当主の相馬子爵から「御懇切なる歓迎辞御款待」に接する栄誉に与っています。昭和15年の修学旅行は、政府の教育に対する戦時統制により、磐梯山麓での軍事教練に振り替えられています。終戦直後のインフレ等による経済混乱は、新制高等学校として再スタートした本校の修学旅行にも影響を及ぼしました。昭和24年の修学旅行は、家庭の経済的負担を考慮し反対する意見が多数出る中、生徒の投票により中止になりました。また、昭和27年の修学旅行は、学校が計画した東京・箱根方面の旅行計画に対して、生徒は関西か北海道を希望し、結局、折り合いが付かず中止になっています。

以上のように、修学旅行は本校の長い歴史において、時代の影響を色濃く受け、目的、内容、行き先、期間、交通手段等を変えながら今日に至っています。しかし、変わらないものもあります。それはまだ見ぬ場所への憧れと旅立つ際の胸のときめきではないでしょうか。『学友会雑誌』34号には昭和11年の修学旅行に参加した生徒の和歌や俳句が掲載されており、その心境を伺うことができます。「修学旅行の思い出」と題して46首を投稿した花井清二良の作品から2首紹介します。

喜びに充ちて出てゆくこの朝五月の風は先づ頬を撫づ
朝もやの中に汽笛のしむりて我乗り汽車は滑り出だすも



春高バレー県代表決定戦でバレーボール部 が2年ぶりの優勝！～躍動する若駒たち～

11月20日、福島トヨタクラウンアリーナにおいて第72回全日本バレーボール高校選手権大会の県代表決定戦が行われ、本校バレーボール部は福島商業高校を破り、2年ぶりの優勝を果たしました。試合は双方2セットずつ取りフルセットまでもつれる接戦となりましたが、最後に突き放し勝利しました。日頃から厳しい練習に打ち込んだ選手諸君の努力が実を結んだ瞬間でした。当日は約70名の生徒達とともに応援に駆けつけました。会場には太鼓の音と生徒たちが歌う校歌が高らかに響き渡りました。歓喜の瞬間を生徒達、先生方、保護者の皆さんと共に迎えることができたことは生涯忘れることはないでしょう。9名の若駒たちの栄誉を称えます。全国大会は年明けの1月5日から東京都調布市にある武蔵野の森総合スポーツプラザで行われます。選手諸君にはモットーであるファイティングスピリッツ・フェアプレー・フレンドシップの3つのFを心に刻み、持ち前の粘り強さを発揮し悔いのないプレーをして欲しいと思います。



イノベーション・コースト構想事業人材育成講演会

10月31日、福島イノベーション・コースト構想事業人材育成事業に係る講演会が行われました。講師に福島大学共生システム理工学類の佐藤理夫教授をお招きし、1年生152名が福島県における再生可能エネルギーの現状について学びました。生徒諸君には予定されている調べ学習のテーマ設定に役立てて欲しいと思います。



大学教授による課題探究型ワークショップ

11月20日、大学進学ミッション支援事業に係る大学教授による課題探究型ワークショップが行われました。講師に福島大学共生システム理工学類の杉森大助教授をお招きし、理数科1年生を対象に「身近なところにもバイオテクノロジー」をテーマに講義をいただきました。生徒諸君は酵母を使った実験を通して、身近な酵素の働きについて理解を深めるとともに、生物工学の研究領域に関するお話に耳を傾けていました。



相双支部生徒理科研究発表会

10月30日、本校を会場に県高校文化連盟自然科学専門部相双支部生徒理科研究発表会が開催されました。当日は相馬高校と原町高校の科学部の生徒諸君が、日頃の研究成果を発表しました。他校の研究から学ぶことも多く、交流会も行われ実りある発表会でした。研究テーマは以下のとおりです。

【相馬】中村城お堀のブルーギル食性調査

不協和音の規則性

音声認識に関する研究

【原町】糸電話による音の伝達に関する研究

グリーンカーテンの断熱効果についての研究

川の水の水質調査～活性炭素による水の浄化～

玉チェーンによる重力加速度の測定



校内授業研究に取り組んでいます
～化学・地理・保健体育・数学編～

本校では現職教育の一環として校内授業研究に取り組んでおり、公開授業が行われています。

【11/1】鈴木智恵教諭の化学の授業では、センター試験まで利用する生徒と個別学力試験まで必要な生徒を二つのグループに分け、さらに前者は習熟度別に班分けして学び会を取り入れ、後者は生徒の思考を引き出しながら理解度に応じて解法のポイントを解説するなど、生徒の主体的な取り組みを絶えず促す問題演習が行われていました。鶴川さくら教諭の地理の授業では、環境問題について「私たちがすべき対策は何か」という課題を設定し、地球温暖化の原因を再確認するとともに、地域によって影響に差異があることを理解した上でグループによる話し合いと発表が行われました。



【11/7】五十風敦至教諭の公開授業が行われました。「レイアップシュートを打つことができようようにしましょう」を目標として明示し、指導上のポイントを3つに焦点化するとともに、他者評価を取り入れた言語活動を通じて、生徒が主体的で対話的に取り組むことができる授業でした。



【11/12】関雄太教諭による数学Ⅰの授業では、グループワークが行われました。2次方程式と2次不等式について、予習してきた補充問題を説明しながら答え合わせをする活動を通じて、解法の基本的な考えを再確認するとともに、新たな解法を共有しました。対話的な活動により楽しそうに取り組む生徒たちの姿が印象的でした。



同窓生列伝⑦ 折笠晴秀 (1885-1965) 続編
～趣味の義太夫とゴルフが取り持つ縁～

折笠の趣味は義太夫とゴルフでした。義太夫とは物語のストーリーや台詞を三味線の伴奏で語る音楽で、日本の伝統芸能である浄瑠璃の一つです。折笠が侍医として秩父宮雍仁親王の治療に当たっていた時、次のようなエピソードがありました。当直の際、折笠が控室に義太夫の本を置いていたことがあり、側近からそのことを聞いていた殿下が、折笠に義太夫を一席ご所望になったことがありました。それを受けて折笠は、「寺子屋の段」を演じたのです。人形浄瑠璃の名作『菅原伝授手習鑑』という話の四段目に当たります。殿下は事前に作品について調べており、終了後、折笠にいろいろと質問をしました。折笠が「どうも下手でお耳をけがしまして」と恐縮すると、殿下は「素人は素人らしいのがよいのではないかと喜ばれました。皇族と侍医の関係を超えて心を通わせた二人の間柄が偲ばれます。

ゴルフについては、医者仲間の中で抜きん出た腕前だったようで、『日本医事新報第1452号』には「昔は医家ゴルファーのNO.1だった」と記されています。また、東京メディカルゴルフクラブの会長も務めていたという記述もあり、ゴルフ仲間のまとめ役でもあったようです。また、ゴルフ仲間には銭高作太郎氏もいました。銭高組の社長を務めた実業家です。銭高氏とは家族ぐるみの交際で、昭和14年、銭高氏が朝鮮で不慮の死を遂げた時、夫人から形見として愛用の煙草入れを受け取るほどの仲であった。折笠の追悼文には次のように記されています。「いつも僕は家族連れで君を訪ねたものだ。君も奥さんもよく喜んで迎えて呉れた。（中略）たゞ吾々が悲しむのは、もはや、永久に君の温容に接することが出来なくなったことである。一緒に君とゴルフをやる事が出来なくなったことである。静かにしみりと君と語ることが永久に出来なくなったことである。」深い友情で結ばれた友を失った折笠の悲しみが伝わってくる文章です。



1・3年生が野外活動に取り組みました
～笑顔の輪が広がった芋煮会～

11月6日、1年生と3年生は野外活動として恒例の芋煮会を行いました。ブロック塀をかまど代わりに組み薪や炭に火を点けましたが、上手に着火する班と着火に手間取る班があり、なかにはバーベキュー用コンロを持参しバーナーで着火する班もありました。生徒諸君は芋煮に加えて、焼き肉、焼き鳥、焼きそば、焼き芋、お好み焼き、パスタ、チャーハン等の思い思いの料理に舌鼓を打っていました。また芋煮会を通じて、級友と楽しい時間を過ごし、クラスの親睦を深めました。晴天のもと会場となった旧相馬女子校グラウンドには、笑顔の輪が広がり、賑やかな声が響いていました。私は3年生から流行のタビオカミルクティをいただき生まれて初めて飲むことができました。



PTA 進路講演会が行われました

11月12日、PTA 進路講演会が行われました。講師に河合塾東北本部営業部長の高橋章氏をお招きし、大学を取り巻く環境、入試のしくみと新しい大学入試、受験生を持つ保護者の心構えについて講演をいただき、1・2年生の保護者約70名が熱心に耳を傾けていました。学習の仕方や現役合格の条件に関するお話は大変参考になるものでした。



松川浦下草刈りボランティア参加者にお礼状届く

10月26日、「NPO 法人 DO55」の皆さんによる松川浦黒松下草刈りボランティアに本校生徒5名が参加し、一所懸命作業に取り組んでくれました。後日、NPO 理事の塩沢三男様からお礼のお手紙を頂戴しましたので、その一部を以下に紹介させていただきます。生徒達にこのような機会を与えていただきありがとうございます。

挨拶もしっかりでき目上の人に対する言葉使いや素直な態度も東京から参加した大人達の間でも話題になり大変立派でした。さすが福島県の文武両道を志向し、120年余の伝統を有する名門高校生の感じを受けました。



【参加者】

荒逢斗君、山田滉輔君、佐久間裕隆君、佐藤真央さん、山下遙香さん